

共同研究者氏名

代表者 姫野 孝雄

北場 勉

寺脇 隆夫

1 共同研究の課題としての『概要目録』

本共同研究の課題は、2011 年 9 月に、日本患者同盟から本学附属図書館に寄贈された患者同盟の資料（朝日訴訟関係資料を含む）について、それらの資料を整理・分類し、二年次計画で『概要目録』を作成すること、それに基づく関係資料の全体的な概要把握を行なうこと、であった。

それらを目標に、2011 年度および 2012 年度の 2 ヶ年度計画の共同研究事業として、整理・分類作業を行なってきた。このたびその成果として、別添の『日本患者同盟および朝日訴訟関係文書資料の目録作成とその概要把握（社会事業研究所 2012・13 年度研究報告／最終報告）』（2014.3）をまとめることができた。その構成は、前半の解説部分（31 頁）および後半の目録部分（342 頁）からなるが、その中核は資料の全体を構成内容とする目録部分にある。その目録部分は、〈第一部〉、〈第二部〉の二つに分かれる。その〈第一部〉は、日本患者同盟（以下、日刊同盟と略）の関係資料である。それは、1948（昭和 23）年の日患同盟誕生以降の 50 年余におよぶ期間、全国各地の患者会・自治会を擁して、活動・運動を展開してきた患者組織の資料である。

また、〈第二部〉は、1957（昭和 32）年の朝日茂の提訴以降 1967 年の終結まで、ほぼ 10 年にわたって展開された朝日訴訟とその訴訟支援運動の資料である。

2 当事者組織・運動の関係資料の意義 そのような本資料の内容をなす、日患同盟およびそれが支えて取り組んだ朝日訴訟関係の文書資料の意義については、別添、最終報告の解説部分でも強調していることだが、次の点にある。

それは、これらの文書資料が日患同盟（とそこに参加する全国の療養所・病院の患者自治会およびそれらの組織の構成員である患者たち）という、いわば当事者組織の運動・活動の歴史を物語るものと言えることにある。

社会保障や社会福祉、また医療などの生活保障の領域にあって、それを受給する当事者の立場は、極めて弱い。中でも、とりわけ長期の治療や療養生活の下に置かれた患者たちの場合には、その疾患故に身体活動面での制約は大きく、自らの労働による所得稼得もほぼ期待できないだけに、この点は明白と言える。

そうした立場の当事者自らが、患者会や患者自治会に集まり、そこを拠点にした全国組織を結成し、自らの要求に沿った活動、運動や取組み、たたかいを展開してきたのである。さらに、そうした患者らの活動や取組みが、様々な難病者や障害者、生活保護や福祉サービスの受給者にも波及・拡大し、各種の団体・組織が誕生、広がったことにも寄与してきた。

本資料は、その展開過程をつぶさに復元・再現するための、得難い資料と言えるだろう。

3 『概要目録』の内容・構成の俯瞰

これらの文書資料の内容については、本『概要目録』自体を見ていただくのが 最良である。ここでは、その全体概要を簡便に把握するために、別表 1（『概要目録』の「分類項目一覧」）を改めて作成した。

これによって、本研究が対象とした、日患同盟（および朝日訴訟）関係資料の、全体内容や構成を俯瞰できる。これで十分と言えるが、表のみでは説明不足のいくつかを、以下に補っておきたい。

- ① 別表〈第一部〉3のcの個別問題でのたたかい・取組み（【13】）や5のa 加盟組織・患者自治会へのオルグ報告（【21】）には、個々の様々な事件・たたかいをめぐる取組みが記録されている。
- ② 同じく〈第一部〉5のf相談活動関係（【27】）は、目立ちにくいだが、日患同盟の重要な活動だった。同盟員個々の悩みや苦闘の相談記録である。
- ③ 〈第一部〉6の日患同盟創設前後の初期資料には、創設前のものが興味深い、機関紙類（【35】b）や都患の機関紙（【35】c）などが注目される。
- ④ 同じく〈第一部〉（10）には、各県支部も含むが、療養所や病院の各患者会・自治会の様々な運動を反映した資料がある。それら個々のものをあげるのは省略せざるを得ないが、基礎組織での事件・取組み・活動である。
- ⑤ 別表〈第二部〉1の資料中には、一審～最高裁の訴状・証言・判決等の裁判資料のほか、提訴前の行政不服審査段階の資料（【81】A）が含まれている。
- ⑥ 同じく、〈第二部〉3のa 現地对策委、b 岡山療養所の自治会（療和会）には、朝日訴訟の原告が所属する地元での取組み活動が見られる。

4 日患同盟および朝日訴訟関係の機関紙・誌の概況

さらに、別表 1 に含まれている資料でもあるが、日患同盟（および朝日訴訟）そのものの活動・運動なり、その背景となる事柄や推移について、年次順にその関係情報がまとまって存在することを指摘しておきたい。

すなわち、日患同盟に関しては、本部が刊行していた機関紙・誌（新聞・雑誌）および全国各地の県支部とその基礎組織である各自治会・患者会発行の機関紙類（主に新聞）である。さらに、朝日訴訟関係については、訴訟対策中央委員会 が発行していた機関紙（新聞）のことである。

それらについては、別表 2 にその概況を示してあるが、これらは長期にわたり継続的に刊行されていたことが重要である。そこには、①同盟全体（本部）の活動 ②各府県支部を含む同盟の基礎組織である各地の自治会・患者会の活動、③朝日訴訟の支援活動、などにかかわる具体的な情報が、豊富に掲載されている。

それらは、いわば年表・年誌のように日付順に、大小様々な説明がついた記事として、見てゆくことが出来る。しかも、その当時の事件や問題・活動を取り巻く時代状況や雰囲気さえも、知ったり、感じられるという余得もある。

別表1 『日本患者同盟（朝日訴訟関係含む）文書資料概要目録』の分類項目一覧

* 【 】内は、本『概要目録』の分類・区分項目番号を意味する。

〈第一部〉 日本患者同盟関係資料

- (1) 大会などの決議機関関係……【01】～【06】
 - i 中央委員会（1951～57年…【01】）
 - ii 全国評議員会（1958～68年…【02】）
 - iii 全国大会（1969～77年…【03】）、（1978～92年…【04】）
 - iv 書面大会（1951～63年…【05】）
- (2) 役員会（幹事会・常任幹事会）関係……【07】～【08】
 - i 幹事会（1952～80年…【07】）
 - ii 常任幹事会（1957～88年…【08】）
- (3) 同盟の運動・活動／その様々な取組み……【11】～【15】
 - a 要請・陳情・請願書など対外提出文書（1952～93年…【11】）
 - b 同盟の方針・報告・パンフなど（1948～82年…【12】）
 - c 個別問題でのたたかい・取組み（1949～92年…【13】）
 - d 実施した各種の調査（1948～90年…【14】）
 - e 関連・関係団体関係（1953～90年…【15】）
- (4) 運動・活動にかかわる行政当局の関係資料(1953～90年)……【16】
- (5) 本部・事務局の業務・活動関係……【21】～【27】、【31】～【32】
 - a 加盟組織・患者自治会へのオルグ報告（1953～67年…【21】）
 - b 組織関係（加盟組織・人員・入脱会）（1954～92年…【22】）
 - c 財政・会計帳簿・証票類関係（1955～92年…【23】）
 - d 加盟組織への通知・通達類（1950～90年…【25】）
 - e 一般発・受信文書（1950～90年…【26】）
 - f 生活相談・医療相談など相談活動関係（1954～92年…【27】）
 - g 事務局日誌・当直日誌・ノート類（1956～82年…【31】）
 - h 事務局職員の人事書類（1953～68年…【32】）
- (6) 日患同盟創設前後の初期資料（1947～53年）……【35】
- (7) 同盟の機関紙……【41】～【45】
 - i 『日患情報』（1948～54年…【41】）
 - ii 『療養新聞』（1954～69年…【42】）、（1970～79年…【43】）
 - iii 『健康新聞』（1980～89年…【44】）、（1990～2006年…【45】）

* これらの機関紙については、別表2も参照されたい。
- (8) 同盟の機関誌……【46】～【47】、【48】
 - i 『健康会議』（1949～79年…【46】）、（1980～88年…【47】）
 - ii 『患者運動』（1967～73年…【48】）

* これらの機関誌については、別表2も参照されたい。
- (9) 同盟発行の一般刊行物（1949～2006年）……【49】

- (10) 各県支部（支連含む）および各患者自治会の一般文書資料……【51】～【58】
- i 北海道・東北地方（53～91年…【51】）
 - ii 関東地方（東京都除く）（53～92年…【52】）
 - iii 東京都・中部地方（47～91年…【53】）
 - iv 東海・北陸地方（54～90年…【54】）
 - v 近畿・関西地方（53～91年…【55】）
 - vi 中国地方（53～90年…【56】）
 - vii 四国地方（55～91年…【57】）
 - viii 九州地方・沖縄県（53～91年…【58】）
- (11) 各県支部（支連含む）および各患者自治会の機関紙類……【61】～【68】
- i 北海道・東北地方（53～91年…【61】）
 - ii 関東地方（東京都除く）（53～81年…【62】）
 - iii 東京都・中部地方（47～91年…【63】）
 - iv 東海・北陸地方（54～90年…【64】）
 - v 近畿・関西地方（53～91年…【65】）
 - vi 中国地方（53～90年…【66】）
 - vii 四国地方（55～91年…【67】）
 - viii 九州地方・沖縄県（53～75年…【68】）
- * これらの機関紙類については、別表2も参照されたい。
- (12) 各療養所・病院、患者自治会の文芸誌・同人誌……【71】～【78】
- i 北海道・東北地方（53～91年…【71】）
 - ii 関東地方（東京都除く）（53～68年…【72】）
 - iii 東京都・中部地方（47～91年…【73】）
 - iv 東海・北陸地方（54～71年…【74】）
 - v 近畿・関西地方（53～91年…【75】）
 - vi 中国地方（53～90年…【76】）
 - vii 四国地方（55～91年…【77】）
 - viii 九州地方・沖縄県（53～75年…【78】）

〈第二部〉朝日訴訟関係1

- (1) 裁判関係の文書資料（一審～最高裁、1955～67年）……【81】
- (2) 訴訟支援運動・その1（1960～69年）……【82】
- a 中央対策委の活動（【82】-A、-B）
 - b 対策委事務局の記録（【82】-C）
 - c 対策委事務局の諸活動（【82】-D）
 - d 朝日訴訟大行進関係（【82】-E）
 - e パンフ・刊行物・映画（【82】-F）
 - f その他
- (3) 訴訟支援運動・その2（1959～67年）……【83】
- a 現地対策委員会関係（【83】-A、-B）
 - b 守る会・支援団体の活動（【83】-D）
 - c 資金カンパ・募金活動（【83】-E）
 - d 宣伝刊行物・映画・スライド（【83】-F）
- (4) 中央対策委の受信文書（1958～68年）……【85】
- (5) 中央対策委の受信文書（控）（1958～68年）……【86】
- (6) 中央対策委の財政・会計帳簿、証票類（1961～67年）……【87】
- (7) 中央対策委の機関紙（『人間裁判』1961～68年）……【88】
- * これらの機関紙については、別表2も参照されたい。
- (8) 附／朝日訴訟関係記事等掲載の一般雑誌刊行物（59～67年）……【88】

別表2 日患同盟（全国各地の自治会・患者会含む）および朝日訴訟対策委員会が刊行した機関紙・誌類の概況 * 【 】内は、分類区分番号。

1 同盟の機関紙（『日患情報』『療養新聞』『健康新聞』）…【41】～【45】

日患同盟の機関紙（新聞）は、以下のように時期により、その名称が『日患情報』→『療養新聞』→『健康新聞』と変わるが、長期にわたり継続して発行されている。当初は、謄写印刷のものもあったが、1946年5月以降は活版印刷（タブロイド判）で継続して刊行されている。日患同盟が取組んだ活動はじめ、それぞれの時期の様々なニュースが掲載されている。

i 『日患情報』（1948～54年、No. 1～199）…【41】

No.10、11、17、18、41、59の6点は欠号。

ii 『療養新聞』（1954～69年、No. 200～910）…【42】

（1970～79年、No. 911～1261）…【43】

iii 『健康新聞』（1980～89年、No.1262～1594）…【44】

（1990～2006年、No.1595～1974）…【45】

* いずれも、この他に、号外多数含む。

2 同盟の機関誌（『健康会議』『患者運動』）……【46】【47】、【48】

同盟の機関誌（月刊雑誌）として、『健康会議』という名で、40年間にわたって、出版社と協力する形で発行された。一般向けに医学関係著名人の執筆論稿も多数掲載されており、親しみ易い雑誌だった。B5判64～80頁前後の活版印刷のものである。

なお、『患者運動』は、1967年3月に役員・活動家向けの理論誌として、総刊された。しかし、73年5月の第10号を以て終刊となっている（B5判32～50頁前のタイプ印刷（表紙は活版）である。

i 『健康会議』（1949～79年、1～21巻）…【46】

*1950、53、58年など、欠号かなりあり。

（1980～88年、22～40巻）…【47】

ii 『患者運動』（1967～73年、No. 1～10）…【48】

3 県支部、各自治会・患者会の機関紙類……【71】～【78】

同盟の各県支部とそれぞれの療養所・病院に組織された各自治会・患者会では、それぞれ機関紙（新聞・ニュース類）を定期発行している。ここには、同盟本部に保存されていたものだけだが、その機関紙類を各県ごとに、各療養所・病院ごとの自治会・患者会別に収録してある。

それらは、あわせて450紙（改称含む）を越えるので、機関紙名などその詳細は、省略する（『概要目録』で参照されたい）。中には、30年を越えて長期にわたって発行され続けた機関紙が数点ほど見られた。

4 朝日訴訟中央対策委の機関紙（『人間裁判』）……【88】

朝日訴訟運動の機関紙として、以下の『人間裁判』が、朝日訴訟中央対策委員会によって、1961年から8年間発行され、訴訟運動の支えになった。いずれも、B4判表裏（2頁）の謄写印刷のものである。

i 『人間裁判』（1961～68年、No.1～215、このほかに号外含む）…【88】